

機内の紙コップが リサイクルされるまで

お客さまのご協力のもと機内で回収された紙コップは、古紙回収業者から日本製紙の工場へ輸送され、段ボール、トイレトペーパーに生まれ変わります。ゆくゆくは紙コップから紙コップへの水平リサイクルを目指しています*。

1

サービス終了後、機内アナウンスにて紙コップリサイクルについてのお声がけ。



2

お客さまに分別のご協力をいただき、客室乗務員がリサイクルごみを回収。



3

回収した紙コップ、紙製リッド、紙製マドラーを、古紙回収業者へ引き渡し。



4

日本製紙の工場へ輸送。分離、選別が行われます。



5

段ボール、トイレトペーパーにリサイクル。将来的には紙コップへの再生を目指します。



*4,5の画像はイメージです。



JALグループが取り組む資源の有効利用については左記のWebサイトをご覧ください。



客室乗務員がリサイクルごみ回収をお声がけ。



機内でのドリンクサービス。

紙コップのリサイクルを始めます

明日の空へSDGs—JALの取り組み—第118回

機内ごみ リサイクルの現状

JALグループでは、資源循環型社会の実現に向けて、お客さまをお迎えする機内やラウンジにおいて4R（リデュース、リデュース、リユース、リサイクル）を推進しています。例えば、航空貨物を輸送する際に梱包資材として用いるポリエチレンシート。JALグループではこれらを廃棄せず、地籍調査事業で使用される境界杭などのリサイクル製品の製造販売会社に40年にわたり提供しています。また、機内においては客室乗務員がごみを回収・分別し、機内食会社やリサイクル会社などと連携し、アルミ缶・ペットボトル・新聞や機内誌などのリサイクルに取り組んできました。そして2022年12月1日、JALグループ国内線の一部路線において、紙コップのリサイ

の難関となった紙製リッド（蓋）の開発と機上検証もクリアし、このたび晴れての実現となったのです。「最終目標である『紙コップから紙コップへ』という資源循環は、本プロジェクトのパートナーである日本製紙さま独自のリサイクル技術があつてこそ実現するものです。新型コロナウイルス感染症の影響でプロジェクトの中断を余儀なくされる中、先方が粘り強く待ってくださいましたことに心から感謝しています」とESG推進部環境推進グループの近藤由希子（当時）は語ります。

クルが新たにスタートしました。お客さまの中には、客室乗務員からのお声かけに既にお気付きの方もいらっしゃるかもしれません。現在、東京（羽田）—沖縄（那覇）を運航するエアバスA350型機の機内にて、ドリンクサービス後に紙コップの分別回収を実施しています。これにより、約13便から合計2100個の使用済み紙コップが回収され、段ボールやトイレトペーパー、そしてゆくゆくは新たな紙コップへとリサイクルされる予定です*。回収時の分別にご協力いただくことで、お客さまと一緒に資源の有効利用を目指します。

また、本プロジェクトに携わった日本製紙の長谷川真さんも、「使い終わった紙コップは分別回収の手立てがなく、リサイクルできそうできない、もったいない資源でした。何とかこの壁を突破して環境に貢献したいわれわれの想いに、日本航空さま、管轄する大田区さまに共感いただき、ようやく、共に一歩を踏み出すことができました」と話します。

日本製紙との パートナーシップ

紙コップのリサイクルプロジェクトは日本製紙からの提案によって動き出しました。実現に向けてトライアルを重ね、最後

JALグループは豊かな地球を次世代に引き継ぐため、お客さまと共にアクションを起こすことで、環境保全と資源循環に取り組みまいります。

この紙コップが生まれ変わります！



*紙コップからの再生原料はリサイクル製品の一部として利用されます。

今回のテーマに該当する目標

紙製リッドの開発については、8ページをご覧ください。



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

